

インターバンクの声（2014年8月18日）

金曜日のニューヨーク市場では、円相場が前日の同市場から続いていたスピード感こそないものの、じわりとした円売りから102円70銭までドルが上昇していた。しかし、この流れは昼まで持たず、ウクライナ軍が国境を越えて侵入したロシア軍装甲車車列を攻撃したとの発表があるや、ドル円は短時間のうちに102円台前半まで急落してしまった。結局上値103円が近くて遠く感じたが、この一週間は101円台に値を戻すこともなかった。今週21日から23日まで開催されるジャクソンホール会議までは、相場も新たなレベルに移行することはないとの見方が一般的であったため、先週一週間の値動きも結果的には納得できてしまうが、果たして22日のイエレンFRB議長の見解で相場が新たな展開を見せることになるのか待ち遠しい。弱い経済指標発表が続いたユーロ圏では、今週も21日にユーロ圏総合PMIの発表がある。1.33ドル台前半はサポートになっているようにも見えるが、上値も直ぐに切り返されているのを見ると、きっかけさえあれば直ぐに今までとは違うレベルに向かいそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。